

1．動作環境とインストール

1 - 1．推奨動作環境

マシンスペック

プロセッサ：Pentium 1GHz以上

メモリ：1024MB以上

空きハードディスク容量：10GB以上

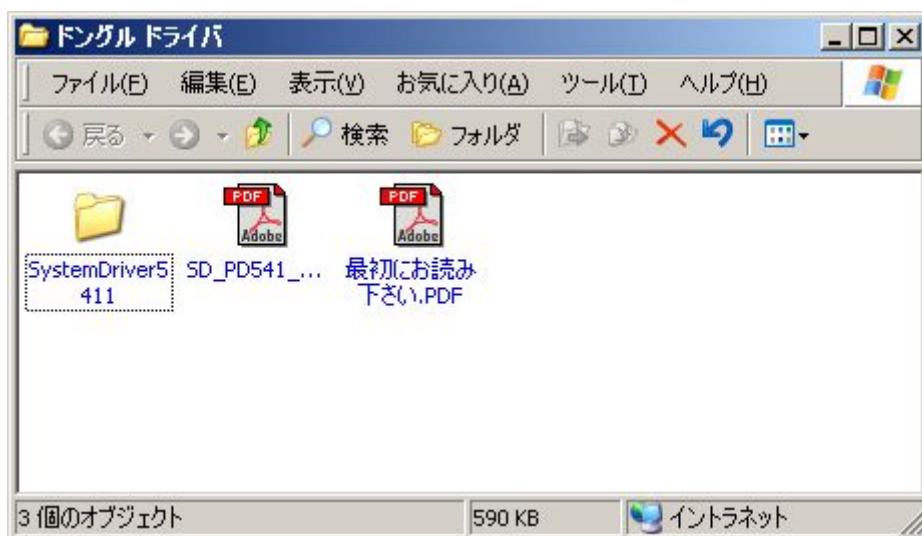
OS : Windows2000

1 - 2．インストール

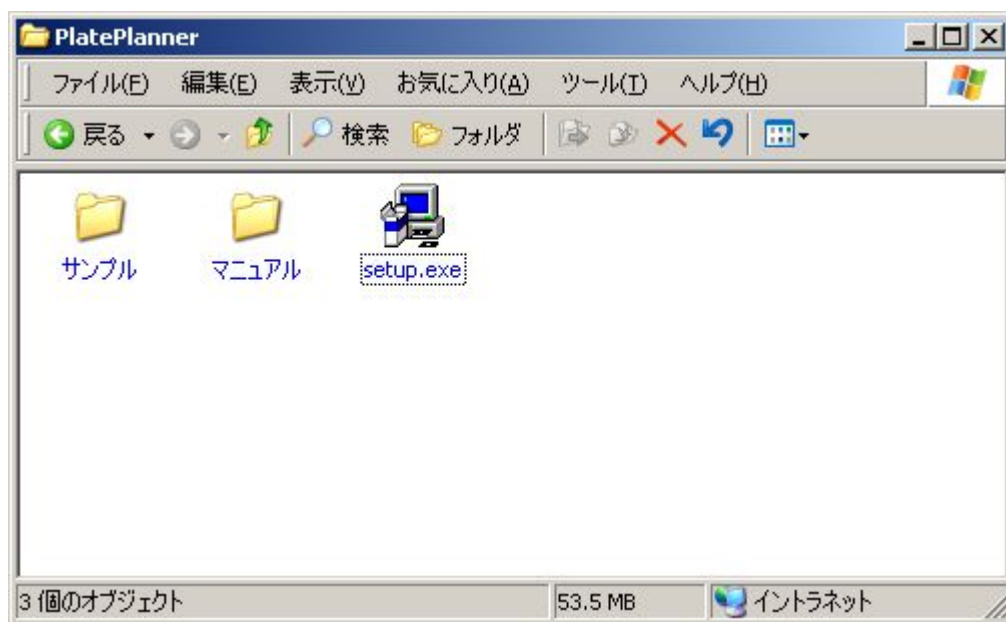
1) ドングルドライバをインストールする。

CD-ROMの中の「ドングルドライバ」「SystemDriver5411」の順にフォルダを開いていき、中にあるSETUP.EXEをダブルクリックします。

インストールの詳細については「最初にお読みください.PDF」を参照してください。



2) PlatePlanner 本体をインストールする。

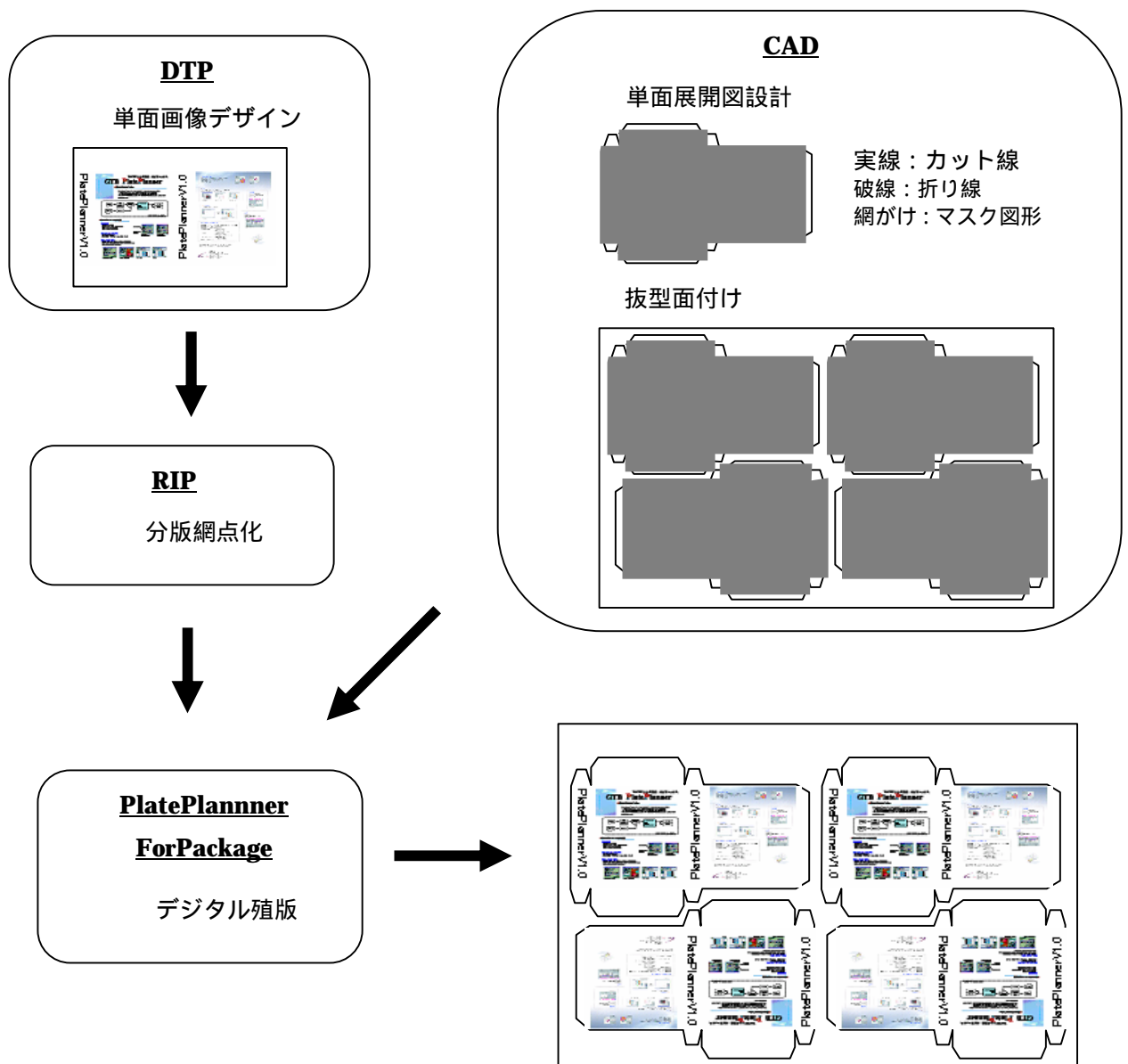


C D-R O M内にある「PlatePlanner」フォルダ内の「SETUP.EXE」をダブルクリックして、インストーラプログラムを起動させます。プログラムの指示に従って、インストールを行います。

2 . ForPackage 概要

2 - 1 . ForPackage について

PlatePlannerForPackage は、CAD システムで作成した抜型データと RIP 後の単面網点画像から、刷版データ（網点画像）を生成する紙器印刷用デジタル殖版ソフトです。



2 - 2 . ForPackage で使用する用語

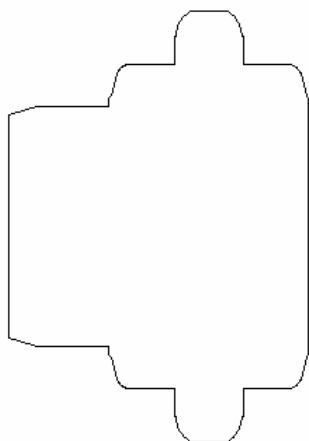
展開図

展開図とは、紙器ひとつ分の図形情報です。CAD システムで定義され、カット線、折り線、マスク線、トンボ線の情報が含まれます。（ForPackage では、カット線およびマスク線が必須となります）

展開図は、以下の情報を持ちます。

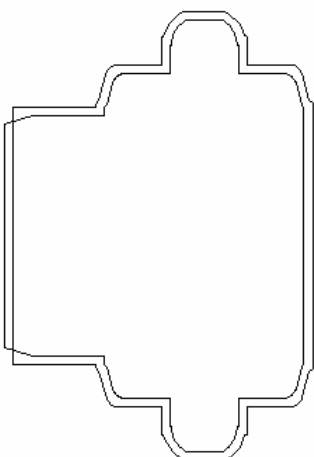
- ・カット線（必須）

カット線は、断裁のための図形情報です。



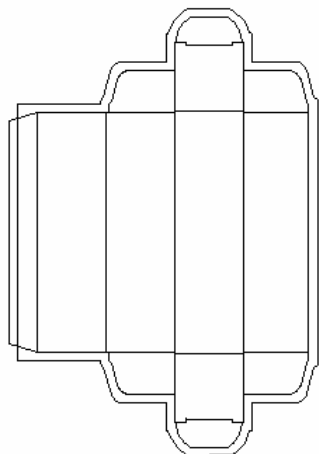
- ・マスク線（必須）

マスク線は、画像の焼き付けられる領域を示します。通常、塗り足し領域で作成します。



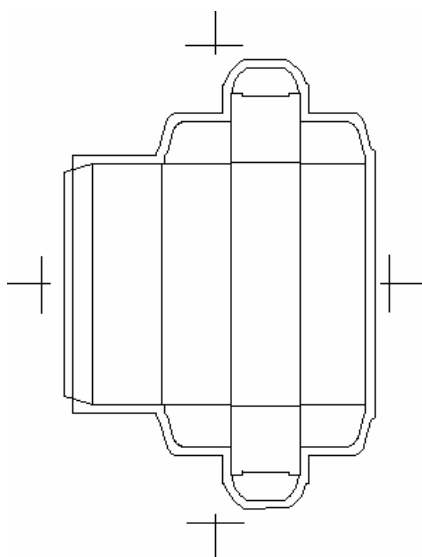
- ・折り線

折り線は、印刷後の紙器を組み立てる際に使用されるもので、ForPackage で出力する刷版データには反映されません。



・トンボ線

トンボ線は、画像との位置を合わせる際に使用します。展開図に含まれるトンボは、ForPackage で出力する刷版データには反映されません。



・ラベル情報

連番や、日付ラベルなどが定義できます。

面付け情報 (CFF2)

ForPackage では、CAD システムで作成された面付け情報(展開図を木型に合わせてリピート配置した情報)を CFF2 フォーマットファイルで取り込みます。

CFF2 内の記述においては、次の線種番号を使用してください。

	線種番号	備考
カット線	1	
マスク線	90	閉図形
折り線	2	
トンボ線	13	
用紙線	98	

パッケージ

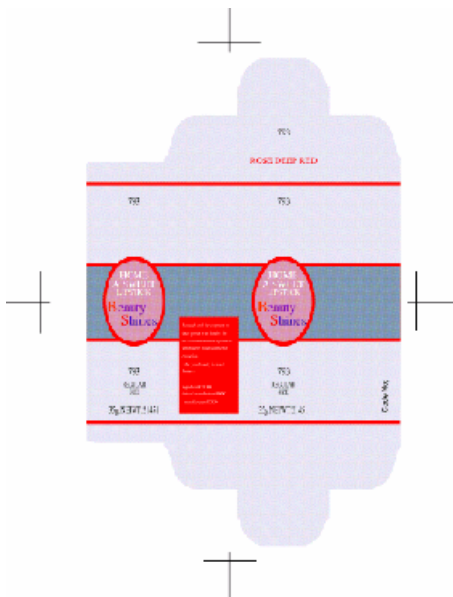
面付け情報を取り込むと、刷版ビューにその面付け内容が表示されます。ForPackage では、刷版に配置されている個々の展開図（配置座標を持った展開図）をパッケージと呼びます。刷版データを出力するには、パッケージに対して原稿を割り付ける必要があります。パッケージは以下の情報を持ちます。

- ・ 展開図の種類、配置座標、配置時の回転情報
- ・ 割り付ける原稿
- ・ 焼き付け順

原稿

原稿とは、展開図に合わせてデザインされた画像とパッケージを結びつける情報です。原稿は、以下の情報を持ちます。

- ・ 各色網点画像ファイル（1 BitTiff）のファイル名称
- ・ 原稿タイプ（ネガ/ポジ）
- ・ 展開図にあわせるための回転角度
- ・ 展開図との位置合わせ情報



2 - 3 . ForPackage での作業

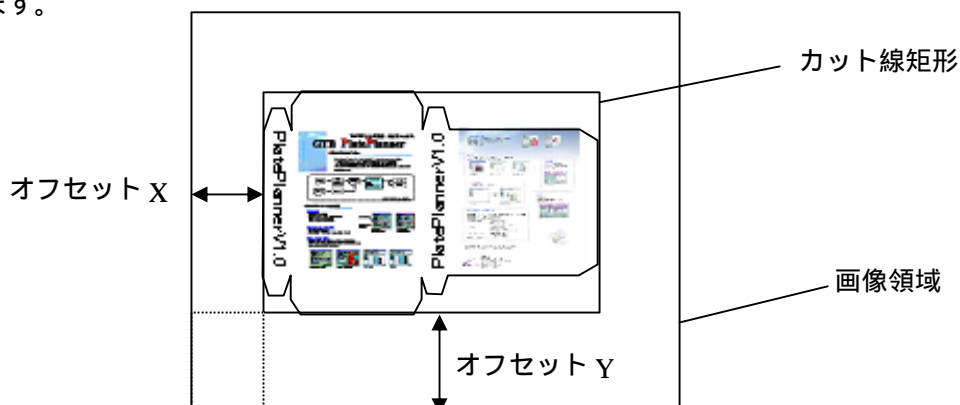
ForPackage を使用した作業の流れを次に示します。

- 1) 面付け情報となる CFF2 ファイルと、単面の RIP 後網点画像ファイル(1BitTiff)を用意します。
- 2) ForPackage を起動して、新規に作業ファイルを作成します。
- 3) 解像度、使用する色版、刷版サイズ、画像ファイルの場所など、作業ファイルに対して各種設定を行います。
- 4) CFF2 ファイルを指定して、抜型情報を取り込みます。
- 5) 取り込まれた展開図に画像を割り付けて、展開図との位置合わせを行います。
- 6) 必要に応じて、連番ラベルの定義やアクセサリを配置します。
- 7) 刷版データを出力します。

2 - 4 . 展開図と画像の位置合わせについて

刷版データを正しく出力するには、展開図に対して画像を正確に合わせる必要があります、この作業を位置合わせと呼んでいます。位置合わせは、パッケージに割り付けられている原稿に対して行い、原稿の設定情報として保存されます。

設定は、つぎのように合わせる展開図のカット線矩形の左下角の位置を画像左下からのオフセット値として指定します。



数値入力による設定方法の他に、展開図のカット線矩形が画像の中心になるようにするための自動センタリング設定、網点画像を拡大表示してカット線矩形の四辺の位置を指定する方法などが用意されています。

2 - 5 . 連番ラベルについて

ForPackage では、同一種類の展開図が複数配置されている場合に 1 から始まる連番を発生させる機能があります。連番設定は、取り込まれた展開図の種類ごとに行います。

2 - 6 . 焼き付け順について

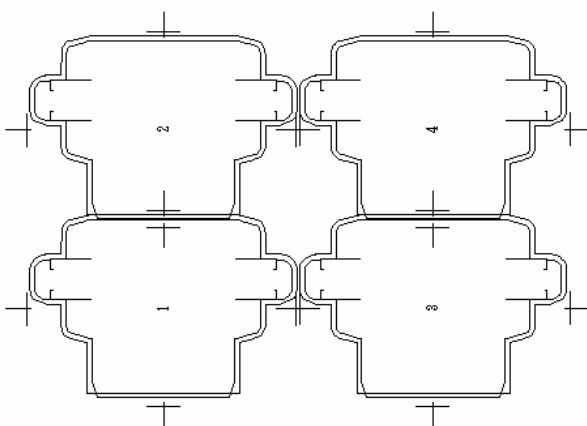
ForPackage では、配置されているパッケージの焼き付け領域が重なるような面付けがなされている場合、焼き付け順によって上下関係が判断されます。例えば、2 番目と 3 番目の焼き付け順を持つパッケージの焼き付け領域が重なるとき、3 番目の画像が 2 番目の画像を上書きすることになります。デフォルトの焼き付け順は CFF2 に記述されている順番となりますが、「焼き付け順の変更コマンド」で順番を変更することができます。

2 - 7 . 自動トンボ発生について

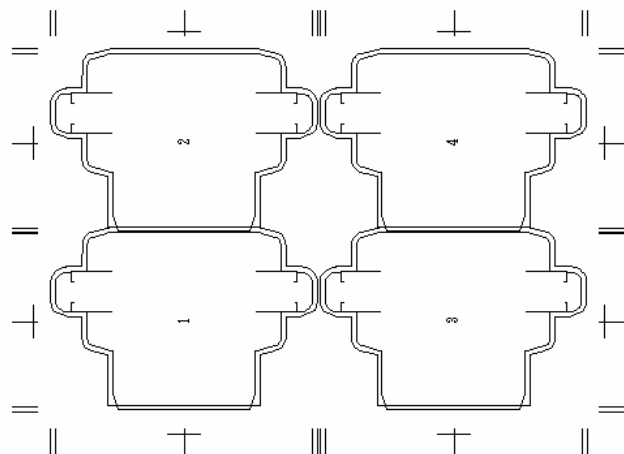
ForPackage では、CFF2 に含まれるトンボを刷版データに出力しません。代わりに配置情報から自動的にトンボを発生させる機能が用意されています。

自動発生可能なトンボには、配置されたカット線矩形の中心位置を示す中心トンボ、カット線矩形や焼付け（マスク）矩形の境界位置を示す角トンボがあります。

CFF2 内トンボ



自動発生トンボ



2 - 8 . 各種フォルダ

ForPackage で操作を行うには次のフォルダが必要になります。

(1) 原稿フォルダ

原稿となる網点画像ファイルを格納するフォルダです。

(2) 原稿プレビューフォルダ

原稿用のプレビュー画像ファイルを格納するためのフォルダです。

(3) アクセサリフォルダ

アクセサリとなる網点画像ファイルを格納するためのフォルダです。

(4) アクセサリプレビューフォルダ

アクセサリのプレビュー画像ファイルを格納するためのフォルダです。

(5) 刷版出力フォルダ

刷版データ (網点画像ファイル) を出力するためのフォルダです。

2 - 9 . ForPackage で取り扱うファイルについて

ForPackage で取り扱うファイルについて説明します。

(1) 原稿、アクセサリの網点画像ファイル (.tif)

RIP で出力された網点画像のファイルです。各色成分ごとのファイルが存在します。

(2) 作業ファイル (.pcw)

ForPackage で行った作業内容を保存するためのファイルです。

(3) テンプレートファイル (.pct)

作業ファイルをテンプレート化したファイルです。

(4) 画像プレビューファイル (.bmp)

原稿やアクセサリの刷版配置状況を画面で確認するために使用されるファイルです。「プレビュー作成コマンド」で生成されます。

(5) 刷版網点画像ファイル (.tif)

ForPackage で出力した刷版用の網点画像ファイルです。

(6) システム既定値ファイル (PlatePlanner.def)

システム既定値を保存するためのファイルです。PlatePlanner を初めて起動したときに自動的に作成されます。このファイルを直接操作する必要はありません。

(7) 刷版サイズテーブルファイル (PlateTable.def)

刷版サイズテーブルを保存するためのファイルです。

(8) 用紙サイズテーブルファイル (PaperTable.def)

用紙サイズテーブルを保存するためのファイルです。

2 - 10 . 網点 (色版) データファイルの名称規則

ForPackage では、色版と網点ファイルとの対応 (どの色版がどのファイルなのか) を網点ファイルの名称の一部を参照して行います。

RIP で網点ファイルを出力する時、名称に色版の参照名が付加されます (付加される参照名は RIP の設定により異なります)。

例えば、CMYK で構成された“ Page.ps ”という PS ファイルを RIP に通すと、Cyan 版は“ 1PageC00.TIF ”、Magenta 版は“ 1PageM00.TIF ”、Yellow 版は“ 1PageY00.TIF ”、Black 版は“ 1PageK00.TIF ”の 4 つの網点ファイルが出力されます。

上記例でアンダーラインのある文字 (列) が色版の参照名です。この参照名と色版名の対応を **ForPackage** の“ システムの設定 ”に登録することで、色版の網点ファイルを判断します。

また、**ForPackage** での“ 原稿 ”とは、これら網点ファイルの名称から参照名を除いた時の名称が一致する網点ファイル郡を 1 つの原稿として判断しています。

(1) 網点ファイル名称の解説

例えば“ 1PageC00.TIF ”の内訳は以下の様になっています。

(RIP の種類や設定によって異なります)

- | | |
|----------|-----------------------------|
| “ 1 ” | - RIP で付加されるページ番号 |
| “ Page ” | - RIP 前のファイルのドキュメント名 (ベース名) |

“ C ” - RIP で付加される色版を判別する為の参照名（RIP の設定や色版
よって異なります）

“ 00 ” - RIP で付加される履歴番号（2桁）

“ .TIF ” - ファイルの拡張子（ファイルのタイプを表します）

（2）**ForPackage** で原稿の判断ができる網点ファイルの名称規則

ページ番号はなくてもかまいません

ベース名は1文字以上

色版の参照名は1文字以上で、履歴番号か拡張子の前に必要

履歴番号は2文字以内で拡張子の前に必要

ファイルの拡張子は “.TIF ” で名称の最後に必要